

夏期特別展「平塚のお祭りーその伝統と創造ー」

開催期間：2005年 7月23日（土）～ 9月4日（日）

この夏、平塚市の神社祭礼をテーマに特別展を開催します。

ご紹介する神社は58社。いかなる基準で58社を選んだのかと申しますと、まずは江戸時代天保年間の『新編相模國風土記稿』に、村の「鎮守」と記載されている神社で、これが43社にのぼります（合祀された鎮守社を除く）。次に『新編相模國風土記稿』では村や小名の小鎮守や小祠に位置付けられていたお宮さんのうち、鎮守に匹敵する規模の祭礼が行われている神社（八幡八坂神社など）9社を取り上げました。また、近世村の鎮守から分離し、小鎮守を氏神として祭祀している神社（土屋早田の造化神社など）が4社あります。残りの2社は、近世以降に祀り始めて現在は地域の鎮守になっている神社です。

これで、神社の無い新興住宅地にお住まいの方を除けば、市民の皆さんの鎮守様を網羅できたのではないかと考えています。つまり58社は地域の鎮守49社+鎮守の例祭に匹敵する規模の祭礼を行っている9社ということになります。この58社の例大祭行事の現状を写真とビデオでご紹介します。

さらに、展示では、神輿や山車、太鼓や笛など神社祭礼に関する実物資料を紹介します。そして、平塚市のお祭りの特色についてお伝えします。また、お祭りは戦前、戦中、戦後、高度成長期、そして現在と、世の中の動きにつれてその内容も大きく変化してきました。今も残る平塚のお祭りの伝統とは何か、失われた伝統は何か、どんな新しい要素が付け加わったのか、そしてお祭りを盛り上げるために各地でどんな創意工夫がなされているか、古い写真も展示して過去から現在への変遷をたどり、平塚のお祭りの伝統と創造を探っていきます。どうぞ、お楽しみに。

☆関連行事☆

○ひらつか囃子太鼓フェスティバル

内容：平塚市内8つの囃子太鼓団体による演奏をご堪能ください。

日時：8月6日（土）午後1時～4時30分（雨天実施）

場所：文化公園（博物館前）

出演：入野太鼓保存会、城所太鼓保存会、前鳥神社囃子太鼓保存会、田村ばやし保存会、豊田西町自治会、豊田本宿自治会、中原町内会、馬入祇園ばやし保存会

見学：自由

○特別展記念講演会「まつりとは何か」

講師：小川直之氏（國學院大学教授）

日時：8月14日（日）午後2時～4時

会場：博物館講堂

参加：自由



展示される豊田西町の山車

夏期特別展記念行事「ひらつか囃子太鼓フェスティバル」を終えて

8月6日、市内の囃子太鼓8団体が文化公園の噴水広場へ集結し、熱い太鼓の競演が繰広げられました。トップバッターはコバチを多用した独特のバチさばきの城所太鼓保存会。木遣りも歌われた馬入祇園ばやし保存会に続いて、シンプルな三人編成の入野太鼓保存会の演奏は昔の叩き方がよく残っているとの声も聞かれました。平塚囃子の正統といえる四之宮前鳥神社囃子太鼓保存会の演奏と里神楽の後で、平塚名物太鼓の叩き合いが行われ、どこも力一杯の叩きっぷりに会場のボルテージはますます上がりました。

後半は中原上宿太鼓保存会の力強くゆったりとした囃子に始まり、静と動、緩急のコントラストが絶妙な演奏と踊りの豊田本宿自治会、ツケの響きが炸裂する喧嘩太鼓の豊田西町自治会、そして勇壮な田村ばやしの演奏で締めくくりました。

たいへん暑い一日でしたが、関係者と聴衆約300名が、今夏の博物館の一大イベントを楽しみました。様々なタイプの演奏が聞け、お祭りで演奏されないレパートリーも披露されて、お囃子好きにはたまらない催しだったのではないのでしょうか。出演者側でも他団体との競演は良い刺激になるようで、いずれも力のこもった名演でした。出演者からは来年もまた実施してほしいとの声も挙がっています。博物館では市内の囃子太鼓がさらに発展し、その良さを多くの人に知ってもらえるよう、これからもお祭りとお囃子太鼓の魅力を発信していきたいと考えています。



熱演する豊田西町